

# 原稿募集

必ず掲載し必ず

## 街かど



街かどはみなさんのページです。今までみなさんからの投稿は全部掲載してきました。しかし、みなさんの投稿がないとせつかつくので、

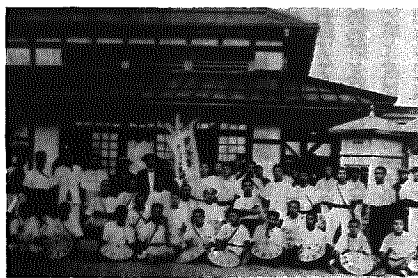
### 短歌

短歌会

行く道で真白い萩の一枝が垣根を越えて我が背にかかる  
宮田 ミイ  
自転車で通勤途中穂すきに頬切られしと友は言いおり  
阿部 浄子  
諏訪の神(建御名方命)いと有徳におわせしらん蒲原はじめあまねく祀る  
柏 直樹地  
ぬまじる米を出荷者に検査員詫びつつ言へり再調整と  
平松清次郎  
浜松の同じ角度に傾きて潮風荒く松籟となる  
酒井 庄平  
年毎に同じ野菜を作る夫に不満洩らしし我が悔まるる  
泉井 ヨ子

## 帝都を救え(二) 救護団東京へ出発

帝都救援の気運は盛り上り、村ではただちに県に申入れるとともに各部落青年団に呼びかけ希望者を募った。こうして他市町村に先がけて震災救護団が編成された。



大正12年9月13日 黒崎村救護団 新潟駅で

山際広太郎(木場青年会)、石田作七、相田相助、小林八郎(黒鳥青年会)、駒沢八三郎、斉藤景(寺地青年会)、鳴海二郎、石橋伝作(立仏青年会)、青山新作、

## 黒崎町の昔



九月十三日、よい天気であった。午前五時、救護団全員が大野の蒸気場に集合した。その服装は次のようなものであった。

翌日は黒崎村救護団の作業地横須賀へ向かった。品川駅まで歩き貨物列車に乗った。(以下次号)

## 俳句

子のために紅白リレーの襷縫う夜更けて虫の声のせわしき  
小出美喜子  
肌寒き夜長の静寂を鈴虫の細き音色の澄みて聞ゆる  
金内 セツ  
鈴なりの露に映ゆる大西日  
いちぢくをふくめば冷たく朝の露  
棟上げの施し拾う秋の夕暮れ  
枯れ枝に止まりて光る赤トンボ  
佐藤 キン



## ②

## ずっと続けたいバレーボール

高橋由紀子(三十九歳 蓮方団地)



再びバレーボールに接した時から現在まで自分の身体の状態と対応して変化することは当然のことなのでしょう。スポーツすべてに共通することかも知れませんが、大別して三つの楽しみに分けられると思います。

一つは、バレーボールを勉強し技術を一つ一つ教わりそれが自分のものになってくる楽しみの時代、練習の中には基礎的なものが多く、それを一つ一つがらばることで自分のものになる

楽しみ、人より少しでも多く練習して上達する楽しみの時代です。それから次のステップは、勝ち負けの楽しみの時代です。初めて試合に出場した時の気持ちはスポーツを経験した人すべてが知っていると思います。いかに自分のすべてを出し切るか、勝つためにチーム全体で色々と工夫する。その中で自分自身の技術的努力、だれもがとおる道だと思えます。そして今家庭を持ち、仕事をもち、その余暇でスポーツの楽しみ。汗を思う存分にながし、自分の生活の場の仲間たちとするスポーツは、今までの自

コスモスの小さなゆれにトンボ乗り  
朝寒や鈴虫の声とぎれがら  
朝夕に菊のつぼみのふくらみ来  
海洋みよき  
友と旅紅葉早き富士の山  
ハツケ岳雲にかくれてすがたなし  
きり雨に白糸の滝細く見え  
モロコシの焼くにおい良し小海歌  
丸山 三夫  
だれかれに花の名問われ責給菊  
カレンダー景色も秋の色となり  
石川恵美子

## わたしはバレーボール

十年前、新潟から黒埼に引越して来て感激したことは、婦人バレーボールチームがあるということでした。新潟国体後しばらく遠ざかっていたバレーボールがこの時から再び始まったの

十年前、新潟から黒埼に引越して来て感激したことは、婦人バレーボールチームがあるということでした。新潟国体後しばらく遠ざかっていたバレーボールがこの時から再び始まったの

十年前、新潟から黒埼に引越して来て感激したことは、婦人バレーボールチームがあるということでした。新潟国体後しばらく遠ざかっていたバレーボールがこの時から再び始まったの

十年前、新潟から黒埼に引越して来て感激したことは、婦人バレーボールチームがあるということでした。新潟国体後しばらく遠ざかっていたバレーボールがこの時から再び始まったの